

巻 頭 言

加古川市民病院機構 加古川中央市民病院は2016年にオープンして以来、東播磨圏域の高度急性期・急性期医療を担い、今年で10年を迎えます。開院時より、当院の運営に格別のご理解とご協力を賜り、関係機関の皆様には心より感謝申し上げます。加古川中央市民病院は2016年の開院以来、600床の病床で、地域の急性期医療の拠点としての役割を果たすべく、高度専門医療、救急医療に取り組んでまいりました。



医師の働き方改革や人口減少、物価高騰など病院を取り巻く環境は厳しい状況ですが、安全で高い質の医療を提供し、地域の皆様から信頼されるよう職員が一丸となって取り組んでいます。

加古川中央市民病院の基本方針の一つに「優れた医療人を育成します」と掲げ、開院時から将来の日本の医療を担う人材の育成を目標に力を注いでいます。近年、医療は目覚ましい進歩を遂げており、安全で高度な医療を提供するためには多職種の連携と教育体制の充実が欠かせません。当院では、ロボット手術などの高度専門医療の推進やゲノム医療など新しい時代の医療を積極的に取り入れています。日々の忙しい診療の中で、学術活動を推進することはエネルギーが必要ですが、最先端で質の高い医療を安全に提供するためには、各職員やグループがリサーチマインドを持って診療、教育に取り組むことが欠かせません。最新のエビデンスを学び、実施した医療の成果や研究を学会や論文として発表し、外部からの評価を受けることが重要です。

研修医や専攻医に対しても自ら課題を見つけ、解決する能力を養ってもらうことを目標としています。昨年、卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定を受け、多くの研修医がマッチングを希望する病院となっています。また、専門医の育成や認定看護師、専門看護師や特定行為研修の充実、各種資格の取得など医療従事者全体の教育、人材育成に力を入れています。病院内でも学術研究会を開催し、TQM活動を通じて、各部所の取り組みを発表する機会を設け、優秀な発表を加古川市民病院機構総会で表彰し、モチベーションを高めています。加古川中央市民病院の学術誌は、その年度の職員の研究発表や活動の中での実績を論文としてまとめたものです。これらの成果は、日々の診療に加えて、病院の診療、教育、研究における努力の成果の賜物であり、今後の病院の発展のための指標となるものです。

今年度からは電子ジャーナルとして発刊することとなりました。ぜひご参考にしていただき、ご意見ご指導をいただけましたら幸いです。

2026年10月

加古川中央市民病院
院長 平田 健一